



みんながつながり 「夢が育つ学校」に

国立二小だより

平成29年7月20日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

国立二小の伝統を未来につなぐ 温故知新（おんこちしん）

校長 小林 理人

孔子の教えに「温故知新」（おんこちしん）という言葉があります。一般的には「昔のことを調べて、そこから新しい知識や見解を得ること。」という意味があるとされています。

私はこのことを踏まえ、「古くからのことをしっかりと学んで、その本質を理解することが大切である。また、そのことが新しい知識を得たり、これからのことを考えたりすることにつながる。」といった捉え方をしています。

先週の全校朝会で、二小の自慢である屋上庭園のことと関連させながら「温故知新」について子供たちに以下のように話をしました。また、終業式の後に行われた二松クラブの開校式では、育成会の会長から二松クラブへの思いや始まりのお話を聞くことで、「温故知新」についてその意味や大切さを確かめる機会となりました。

「温故知新・・・その① 屋上庭園」

二小の自慢である屋上庭園は、この夏に完成10年を迎えました。前校長の川畑孝久先生や地域、保護者の皆様の子供たちを思う温かい気持ちと努力が、現在の教職員、保護者の皆様の心に伝わり、施設の維持ができています。

4年生の総合的な学習の時間「屋上庭園について調べよう」では、川畑先生を講師としてお招きし、子供たちに屋上庭園への思いやできた頃の様子についてお話をいただきました。また、先日、川畑先生が、屋上庭園の桜やブルーベリーなどの剪定のため来校しました。その際、6年生の総合的な学習の時間「二小の自慢を発信しよう」で屋上庭園をテーマにしている子供たちが、先生から当時のことを詳しく聞きました。先生のお話を要約すると以下の通りです。

○冷房も無く、夏の日差しで高温になる3階教室の室温を少しでも下げて、子供たちに快適な環境で学習をさせたいという思いから屋上に庭園をつくることを考えた。

○子供たちの自然を大切にする心を育て、地域の保護者の方の交流の場として、安心できる空間、楽しめる場所をつくるために、屋上庭園やビオトープをつくった。

4年生と6年生の子供たちは、屋上庭園やビオトープの歴史を知り、改めて施設の意義や自分たちの関わり方を考えることができました。

「温故知新・・・その② 二松クラブ」

二松クラブは二小の伝統であり、他の学校、地域に誇れる夏のイベントです。地域の方が声を掛け合い、子供たちのために自分たちの培った技や知識を伝承することや、地域の宝である子供たちと一緒に楽しい時間を過ごすことなどを目的としてスタートしました。教職員や保護者、関係団体などもこの趣旨に賛同し、規模を拡大しながら10年以上続いています。

開校式では、育成会の会長からこうした二松クラブへの思いや始まりのお話を聞くことで、子供たちや教職員がその意義を再認識し、自分たちの関わり方を考えるきっかけとしています。

屋上庭園や二松クラブ以外にも、校庭で行われる地域の盆踊りや皆さんに披露をする二松ソーラン、そして、来年で10周年を迎える金管バンド（二松FUNBAND）が二小ならではの取組です。「故きを温ねて新しきを知る」二小を大切にしてきた方々の気持ちとともに、価値ある二小の伝統を私たちがしっかりと理解をして、未来の主役たちに引き継いでいきます。